

第11回 伊賀市非核平和推進 中学生広島派遣団

市内の各中学校の代表として、生徒10人を8月5日から2日間、広島市へ派遣しました。

参加した生徒は、それぞれの学校の生徒一人ひとりが平和への祈りを込めて折った千羽鶴を原爆の子の像へ捧げました。また、平和記念式典への参加や平和記念資料館の見学、被爆体験講話の聞き取りなどを通じて、70年前に起きた人類史上最初の原子爆弾による悲惨な現実を、見て、聞いて、肌で感じて、非核平和への思いを新たにしました。



8月5日（水） 被爆体験講話



11歳のとき、爆心地から約2km離れた自宅で被爆した瀬越睦彦さんからお話を伺いました。

◆青山中学校 佐合 奏音

瀬越さんからお話を聞かせていただきました。原爆は一発でたくさんの罪のない人の命を奪ってしまうことを、改めて教わりました。

「戦争は子どもの心を鬼にする」という言葉が、とても心に残りました。



◆阿山中学校 土永 瑚々菜

瀬越さんから被爆体験講話を聞かせていただきました。お米を、一粒でも食べられることに喜びを感じると何度もおっしゃっていました。

私は、お米を好きなだけ食べられることに、もっと感謝して食べようと思いました。

爆心地・原爆ドーム



上空約600mで原子爆弾が炸裂した爆心地と、原爆の惨禍を伝え、核廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルである原爆ドームの見学を行いました。

◆緑ヶ丘中学校 北村 友嗣

僕は、原爆ドームを目の前にして、すごく悲しい気持ちになりました。

また、その姿からは原爆の恐ろしさがとても感じられました。感じたことや平和の大切さについて、少しでも多くの人に伝えていきたいです。



原爆の子の像



市内の中学生一人ひとりが心をこめて折った千羽鶴を、原爆の子の像に捧げました。

◆城東中学校 亀井 翔天

原爆の子の像には、多くの千羽鶴が捧げられていて、それは全国各地から集まったものでした。それだけ多く捧げられているということは、それだけ多くの人々が、世界の平和を心から祈っているのだと肌で感じられました。

広島平和記念資料館



原爆の惨禍を示す写真や、資料の見学を行いました。

◆柘植中学校 川口 さくら

資料館には、事前学習会で見た映像作品『夏服の少女たち』に出てきた夏服が展示されていました。実際に見ると、原爆や戦争の恐ろしさを改めて感じました。だからこそ、毎日勉強できることに感謝し、今この時を精一杯楽しみたいと思います。



◆上野南中学校 藤山 裕大

僕は、平和記念資料館に行き、原爆で被爆した人の写真を見ました。写真には、全身にやけどを負った人や、からだ全体にガラスがささった人がいました。それを見て、今では考えられないほど苦しんでいたとわかりました。

8月6日（木） 平和記念式典



平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）に参加しました。

◆崇広中学校 二階堂 充教

暑い中、日本各地、世界各国からの参加者で埋め尽くされていた。黙とうの際には辺りが静まりかえり、鐘の音が響きわたった。

こんなにもたくさんの方が平和を願っているのに、なぜ争いが絶えないのだろう。



◆霊峰中学校 藤川 美紀

今年は戦後70年という節目の年であり、たくさんの方が平和記念式典に参加していました。

多くの方が平和を願い、絶対に同じことを繰り返さないように、平和な世界を私たちが作っていくべきだと思いました。

「戦災児育成所“童心寺”物語」



広島市立舟入高校演劇部による「広島戦災児育成所“童心寺”物語」を鑑賞しました。

◆島ヶ原中学校 梶川 美月

舟入高校演劇部による心のこもった劇に感動しました。

劇中に、お母さんとはぐれてしまった男の子がいました。もし自分だったらと考えると涙が出そうになり、戦争は幸せを奪うものなので二度としてはいけないと学びました。



◆大山田中学校 葛原 春音

演劇では、原爆で家族を失った原爆孤児という子どもたちの、力強く生きる姿がありました。

今、私たちが不自由なく幸せに生きていることに感謝し、8月6日の出来事を絶対に忘れてはいけないと感じました。